

卷頭言

都市公園と環境

九州大学名誉教授
福岡都市科学研究所 理事長

光吉健次*

私どもの生活のなかで、公園がどのような役割を果たしているかと問われた場合、公園を余り利用していないこと、そして、公園が身近にないことに気付くに違いない。と同時に、そのような人でも、必ずと言って良いほど、都市には公園は必要だと言うに違いないと思う。

公園には、国立公園、国定公園から近隣にある児童公園にいたるまで多くの種類があり、また、所管の官庁でいえば、建設省から厚生省等にわたっている。ここでは、このような公園すべてを対象とするのではなく、身近でしかも生活から切り離せない市民の＜公園＞を中心に触ることにする。

歴史を振り返ってみると、都市公園として計画的にとられたものに、ミレトスの計画がある。ミレトスはギリシャの都市で、B・C 480年ヒッポダモス(格子状都市の最初の設計者として知られている)によりつくられた都市である。市域面積は89ha、そのうち21haが公園および庭園になっている。当時、何故公園が都市に必要であるのかについての記録は見当たらないようである。

都市に公園を設けようとして、本格的に取組みはじめたのは1800年に入ってからと考えられる。この都市公園は大別して二つにわけて考へる事ができる。一つは君主や城主等封建時代の支配者の庭園を、公園として開放したもので—兼六園、舞鶴城公園等、外国ではロンドンのリーズントン公園等—がある。他の一つは、近代に入り、都市に人口が集中し、その集中化の過程で生まれた公園である。ロンドンにおける公園がそれである。19世紀のイギリスとくにロンドンでは庶民住宅が市域周辺にあふれだし、背割り型パターンの住宅により緑地が全く見られないという状態になった。これに対し、＜公共歩道と庭園＞がチャドウイック等による特別委員会により提案され、やがて実現されることになった。

アメリカにおいてもオルムstedにより＜都市公園は余暇の場であり、自然をそこなわないことを前提につくられるべき＞とし、1857年公園総監督官として、ニューヨークにセントラルパークを実現している。彼は、都市は都市らしく、自然は自然らしく両者を対置しながら入念に設計しているが、同時に都

*当協会理事

市公園群をネットワークとして体系的に計画を進めている。

このような都市公園に対する考え方は、工業の都市集中という産業革命の進む中で、フランスの計画家トニー・ガルニエによる1898年＜工業都市＞計画の中にもとりあげられている。用途地域制にもとづく都市機能の配置、即ち、政治機関、文化施設、製造工業等を独立して配置し、それらを緑地帯で区分しながら、住宅地に多くの公園・緑地を設けている。この都市機能分析的手法はやがてル・コルビュジエにより、都市を職場、住宅、レクリエーション、コミュニケーションの四つの機能にわける理論につながっていくが、住居地区に緑地・公園が計画的に設計されるようになった。

日本ではこのような考え方が西欧から輸入され、都市公園法施行令第一条及び第二条で公園に関する規定を設けている。都市公園の住民当たりの敷地面積の標準は6平方メートル以上にすること、児童公園は誘致距離の標準を250mとして配置、敷地面積は0.25haを標準とすること（近隣公園等は省略）等がそれである。

世界の主要都市の一人当たり公園面積を取り上げてみると、ロンドン30m²、ニューヨーク20m²、パリ12m²、東京2.2m²、大阪2.8m²、札幌6.4m²、福岡8.7m²、となっており、日本が如何に低水準にあるかがわかる。東京等での地価を考えると、今後公園面積の増大は期待されないであろう。

これまで公園は、主としてレクリエーションの対象として考えられてきたものの、日本では余り公園を利用するという習慣がなく、身近な存在でもなかったように思う。しかし、

高齢化社会の到来とともに、健康維持のための運動空間としての利用が高まることは間違いない。また同時に、最近では公園に対する都市的機能だけでなく、新しい要素が期待されつつある。列記してみると、

- ① 都市の景観に変化を与えること。（水、噴水、彫刻、ストリート・ファニチャー等）
- ② 排気ガス等空気汚染を浄化すること。
- ③ アスファルト、コンクリート等による輻射熱のコントロールに有効である。
- ④ 騒音を抑制する。
- ⑤ 地震等防災のための避難所となる。
- ⑥ 規模が大きくなるほど野鳥が生息し、新たなる都市の生態系をつくりだす。

このように、公園は都市に対して大きな役割を果たしているわけであるが、最初にふれたようなく公共遊歩道と庭園のネットワーク＜余暇の場であり自然を損なわない＞事を前提に、快適な都市環境を造り出すため、その拡大とより一層の確保に努力すべきことは言うまでもない。